

関連項目：教育活動プラン③

人とのよりよいかかわり方を身に付けさせる異学年活動

目的

本校の児童は、保育所・幼稚園期から小集団のなかで生活してきました。そのため、一人一人に多くの領域で活躍の場が確保され、充実した生活が送れています。しかし、中には、最後まで頑張ったり競争したり、自分の思いや考えを相手に正しく伝えたりすることに苦手意識をもつ子も見られます。そこで、自分の夢や希望をもって努力したり、友だちの考えに左右されず、自分の考えをもって判断・表現・行動したりする、自主的・自律的態度や実践力を育む取り組みを推進することにしました。

内容

● 全校での社会的スキルの習得

友だちを知り、かかわり方を身に付けることをねらいとし、年3回のスマイル集会や各種の行事でグループエンカウンター等を実施。



● 児童総会を通してみんなで考える

個々の子どもが、自分たちの課題を見つけ、全校児童に提案し、その解決方法について児童総会を通じて考える。



● 異学年交流を通して人とつながる喜びを味わう

縦割り班を形成し、スポーツ広場や縦割り清掃、校外学習等の活動を実施。



成果

子どもの実態をふまえ、本校の校訓である「やさしく・かしこく・たくましい子どもの育成」を目指し、上記の取り組みを行っています。そして、これらすべての活動の中で「ふり返りの時間」を設け自分の考えを発表する場を設定したことで、自分の思いを表現できる子どもが多くなりました。また、「Q-Uアンケート」「心のアンケート」等の調査では、精神的に安定傾向を示す子どもが増えており、現時点での不登校児童はいません。今後も、個々の子どもの実態を踏まえ、「生徒指導の3機能」の視点から、よりよい教育活動に取り組んでいきたいと考えています。